

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370500540
法人名	特定非営利活動法人 NPOみなまた
事業所名	グループホーム ふれあいの家
訪問調査日	平成 20 年 3 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370500540
法人名	特定非営利活動法人 NPOみなまた
事業所名	グループホーム ふれあいの家
所在地	熊本県水俣市月浦字出月213-1 (電話) 0966-62-3878

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号ロフティ長安寺ビル402号		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年3月26日

## 【情報提供票より】(20年2月29日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.3

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有( 50,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水俣協立病院 協立クリニック みのだ歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者も新築移転後の新しい住まいに慣れており、落ち着いた暮らしが戻ってきている。民家とは少し離れた斜面ではあるものの、町並みを見下ろす風景や周りの畑から季節が常を感じられる。陽当たりや風通しもよい室内は、車椅子でも自由に移動することができ、リビング・居室・廊下のミニスペース等で自由に過ごす空間も確保されている。家族へは毎月の便りを出して連絡をとり、生活ぶりや介護計画の内容・スナップ写真で報告がされている。地域の中での暮らし支援と、介護や認知症専門施設としての役割を積極的に担う姿勢が感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	設計にも配慮された新築の住まいはハード面での課題改善が図られ、身体機能が低下している入居者にとっても過ごしやすい生活空間となっている。バリアフリー化された居住空間での自由な生活や行動支援は、かえて入居者の身体機能の向上にも好影響を与えている。緊急時対応の勉強会や救急救命の講習等、職員数の充実に伴い充実してきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組みミーティングを重ねて管理者がまとめたものであるが、改善項目の抽出や具体的な計画を順次取り組む事になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1回は定期的開催し、入居者の状況や行事内容・外部評価結果や職員研修・会議等の報告を行っている。また地域との交流について活発な意見交換がされており記録にも整理されている。消防団からは入居者の外出の際の安全確保や火災対策について提案もされており、運営に役立てる予定にしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会や運営推進会議の開催や広報誌の発行等で、意見や苦情を出しやすい環境を整備している。また職員と家族とは同じ地元であるため関係構築がやすく、ホーム運営への反映がしやすい状況である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初から地域との交流は積極的に取り組まれており、新築移転後も運営推進会議や地元職員たちを通じた交流の働きかけが行われている。今後は地域高齢者とその家族に対するホームの多機能性活用が期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の職員で話し合っってつくりあげた理念であり、当初より地域との共生を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回の職員のミーティングの中で理念に沿ったケアが出来ているか振り返り、全員で確認しあっている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の協力を得て地元の祭り等に参加、また「ふれあいのいえだより」を配布してホームを紹介している。市報の催事にも参加しており、積極的に地域との交流に努めている。地元の職員が多く、交流にも役立っている。		新年度からは地元の高齢者交流の場に参加する予定となっており、今後地域での認知症啓発のための積極的なアプローチが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組み、その後のミーティングで協議し、管理者がまとめたものである。今後の改善策も提案されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況や行事報告・職員研修や会議の報告等がされており、ホーム運営の開示や地元との関係作りについて前向きに取り組んでいる。		

グループホーム ふれあいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には実績や事故報告時など連絡を取っている。昨年の新築移転の際にはホームへ招待し理解を深める働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の報告や介護計画内容や実績を「おたより」に書き、「ふれあい通信」と共に郵送している。金銭管理は領収書と共に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の「おたより」で呼びかけたり、家族来訪時に意見交換を行い支援内容や運営に反映をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援が重要と考えており、異動は極力避けている。できるかぎり入居者が不安にならないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホーム内の勉強会のほか、ブロック会議での研修や外部研修に交代で参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣・葦北地区のブロック会議には管理者や職員が参加しており、学習や交流を通じて質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者にはゆっくり馴染んでもらえるよう、家族と協力しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の得意分野や経験から、様々な場面で教え合い等をしている。できる限り本人の自立を促すように配慮している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎月のモニタリングを通じて意向や満足度の把握に努め、職員間でも記録に残しながら情報交換を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当による毎月のモニタリングと、3ヶ月ごとの全職員によるモニタリングを基に、入居者・家族の意向・要望を反映しながら全職員で話し合い作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に1年毎の見直しとなるが、3ヵ月毎のモニタリングや入居者の状態変化等で介護計画見直しに柔軟に対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医による月2回の往診や皮膚科・眼科等の通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院がほとんどであり、往診もしてもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については家族・医師とカンファレンスを重ね、指針に基づいた対応をしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを尊重した言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについては全員が理解している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則や日課は作らず、一人ひとりのペースを守るように支援している。起床・食事・就寝時間にも柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望で献立が重複しないような工夫をしている。食事の下拵えや茶碗拭きなど一緒に行いながら、食事の場の雰囲気作りに努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、日中に入浴支援している。拒否の方には言葉かけに工夫をして無理強いしないようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝いや買物・洗濯物たたみ・猫のえさやり等をしてもらっている。外出やおしゃべり・歌・自屋で写真集を開いたりしている。		家事作業などの中で、入居者と共に取り組めるような事の検討を行い、職員の意識醸成と体制が期待されます。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体的に外出困難な入居者が多く、散歩や日向ぼっこで対応している。自発的な希望が少ないため、誘い合わせて外出する機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や裏口などに鍵はかけておらず、玄関や裏口などに常に気配りして、さりげなく支援するようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。自動通報装置の設置もしているが、近所の協力が必要と判断している。次回は地元の消防団に協力を依頼して避難訓練を想定している。		訓練では近所や地元消防団との継続連携を求めることが期待されます。運営推進会議での検討も望まれます。

グループホーム ふれあいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分摂取量は記録し把握している。水分は補充は好みの飲料水や味噌汁を工夫して行っている。</p>		<p>飲料水や味噌汁だけでなく、できるだけお茶や水での水分補給が望まれます。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ダイニングやリビングルーム・和室はキッチンに直面しており、職員の見守りの自由な行き来ができるようになっている。廊下などにソファも設置されて、つろげる配慮がされている。広いウッドデッキは、入居者ばかりでなく近所の人との交流の場としても利用されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個性的な部屋作りがされている。家族とも居室で談話できるよう、ホームでソファを用意している。加湿器を設置し健康管理への配慮もある。</p>		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ふれあいの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県水俣市月浦213-1
記入者名 (管理者)	坂本 昭子
記入日	平成 20年 2月 29日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権(その人の暮らし)、安心(居心地の良さ)、共生(地域の住民として)」の三つの柱を基本とした理念を作り上げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のミーティングの場で、日々の対応のふり返りを理念に沿って行っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域や家族それぞれに、ふれあい通信を配布して活動を伝える努力をしている。	通りがかりの人が気軽に立ち寄り、入居者の方と交流ができるような場を整える。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	引越して、隣近所に家がなく、通りがかりの人や畑仕事をす人へのあいさつを心掛けている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の一員として入居者の方と地元祭りに参加し、交流に努めている。	地元の催し物などを早いうちにキャッチし、計画を立てる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域からの要請で、認知症ケアの啓発を求められたら積極的に取り組んでいる。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を全職員で行い、目的や意義を理解するよう努めている。又、外部評価の結果をミーティングで伝え、改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>引越して、新たな関係作りや模索している所である。建設的な意見は出して頂いているが、まだ一歩踏み出した所である。</p>		<p>地域との交流イベントを計画している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>新築の際、招待し、「ふれあいの家の経験と取り組み」について発表し、理解を深めてもらっている。</p>		<p>今後どのような検討課題があるかを協議していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要と思われる人には制度を説明しているが利用には至っていない。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の学習会を開いて理解を深めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族との信頼関係を第一に置いており、看取り等においても個別に話し合いを重ねている。</p>		<p>もっと十分に話し合いを重ねていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>自分の気持ちを言葉で表現できない入居者の方は、ご本人の表情から察知するよう努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の訪問時はもちろん毎月、写真入りの通信と共に個別に入居者の方の状態をモニタリングして「おたより」で報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の訪問時には、出来るだけ丁寧に対応し、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、ご意見をケアに反映させるよう努めている。</p>		<p>できることと、できないことをご家族に納得のいくよう、もっと説明していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや職員総会等で出された意見を反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ぎりぎりの人数のための管理者・職員に負担がかかっているが、入居者の方の個々の状態に合わせたシフトの調整には努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの職員が対応することが入居者の方、ご家族への安心につながるので、やむを得ない場合を除いて異動はできるだけ避けている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者会議、主任会議、職員研修、職員総会等を通じて育成の努力がされている。又、積極的に外部の研修への参加が推奨されている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム地区ブロック会や地域のサービス事業者の施設部会等を通じて交流や学習を行い、質の向上に励んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室がある。1日1～2回ティータイムをとっている。親睦会や個別面談を時々開いている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	女性の多い職場なので育児休暇が認められている。健康診断は年1回実施されている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人、ご家族に会い、困っていることや不安など、その方の状況を把握するよう努め、入居時のショックを和らげるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の方の状態や困っていることなどを詳しく聞いて、ご本人を把握し、状況を受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込み時、相談に乗り、必要と思われた時は他のサービス利用を紹介している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時、ご家族の協力を得ながら、ゆっくりなじんで頂けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意を払い、本人のペースを尊重した暮らしを心掛けている。		つい手を出してしまう場面を改め、入居者の方の自立を促す努力をする。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を密に行うよう心掛け、ご本人を共に支える関係を築く努力をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の家族への思いが伝わるよう様子をこまめに伝え、必要時は面会を依頼する。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人などとの交流を大切にしている。面会時には当時の様子などを積極的に聞いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合いそうな人同士を同席にして家事参加やレクリエーション等を共に楽しんでもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もお見舞いに行ったり、ご家族を行事に誘ったり、つきあいを大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の表情や態度を観察し、満足度やニーズを把握することに日々努めており、職員間の情報交換を密に行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や知人からこれまでの暮らしを折りに触れ、たずねて常に把握する努力をしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察、情報交換と共に月1回のモニタリングを通して、ご本人の心身状態の細密な把握とニーズの再発見に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・家族の要望を折りに触れ、聞き、モニタリングで全職員と話し合い、介護計画に反映するよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態の急変時には、すぐに見直しをして、現状に即した計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、一日の流れ表、inout表、排便チェック表等を利用している。 職員全体が毎日それに目を通し、申し送り時に情報を共有し、介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日モニタリングを職員全体で討議しており、各個別の「次月の課題」を立てている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議での助言により、地域の回覧板で通信を発信しており、入居者の方の顔を覚えてもらう努力をしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	かかりつけの歯科医に相談して、口腔ケアの管理指導に「はみがき隊(歯科衛生士)」に訪問指導を依頼している。 必要な人に針灸、マッサージを医療手帳を利用して依頼している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、意見や助言をもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のなじみのかかりつけ医に定期往診を依頼している。 ご本人の状態を主治医に細かく報告し、より適切な医療を受けられるよう援助している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診が必要な方には受診できるよう支援しており、専門医と緊密に連絡を取り合っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応の訪問看護ステーションと連携を取り、週1回定期的に健康チェックをしてもらい、相談に乗ってもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人の状態を病院に説明し、なるべくストレスや負担がかからないよう配慮してもらい、早期に退院できるよう情報交換に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した方については、主治医・ご家族と共に繰り返し話し合いを重ね、ご本人にとってより良い状況で暮らせるよう関係者一同で方針を共有している。		他の方々にもできるだけ早い段階で方針の共有をはかっていく予定。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記のように重度化した方への方針は共有しているが終末期介護の経験は、まだしていない。		今後の変化に備えて、主治医やご家族と共に検討や準備を行っていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでのご本人状況を細かく伝え、ご家族と連携をとりながら職員も何度も顔を出し、不安を取りのぞく努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人のプライドを大切に、さりげない言葉かけや対応を個別に行っている。</p> <p>個人情報の取扱いは職員一同個別の注意点を確認している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>外食、弁当、献立等、事あるごとに希望をきき出す努力をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人のペースを第一に考え、好きな時間に好きな場所で過ごしてもらっている。</p>	<p>もっと個別の楽しみを見出す工夫をしたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>選べる人は好きな服、髪型を選んでもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>茶碗ふきや下ごしらえのお手伝いができる人にはお願いしている。</p> <p>盛りつけは、お願いできないのが残念である。</p>	<p>一緒にホットプレートなどで、おやつ、食事作りをもっと楽しみたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>腎臓病や糖尿病で食事制限の厳しい方が沢山いて難しいが、できるだけ配慮しつつ食べて頂いている。ビールや焼酎を好む方には時々食後に楽しんで頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	リハパン使用の方も排泄時間を把握して、ポータブルトイレやトイレを使用している。 そっと耳うちするように指導している。 食後、トイレに坐って頂いている。		トイレの使い方がわかりにくい方が居られるので狭いトイレ、又は和式トイレの増設が必要か検討中。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中の暖かい時間帯でタイミングに合わせ入浴して頂いている。 ゆず湯、しょうぶ湯、入浴剤などで温泉気分を味わって頂いている。 どうしても入りたがらない人には言葉かけを十分にして合意して頂く。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調をみながら休息して頂いている。 お好きな流している。 温度・湿度の調節、換気に気をつけている。 入床前に暖かい飲み物を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、庭でのおやつ、ドライブ、季節ごとのおでかけやイベント。 日々の茶碗ふき、洗濯物たたみ、買物等。 おしゃべりや歌を共に楽しむ。		変化に富んだものだけでなく、生活の中でのちょっとした楽しみや活力につながるものを見つけない。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持って安心される方には持って頂く。ある程度管理できる方には、ご自分で管理して頂く。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事以外でも天気の良い日に散歩に行ったり、庭でおやつや食事をしたりしている。		もっと積極的に外出を誘う。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出は体力的にきびしい人が多く、季節の行事、イベント以外は実現できていない。		車イス対応車を導入したので、もっと積極的に外出したい。 家族との旅行支援を考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけ、ご家族からの電話があれば取り次いでいる。		ハガキや手紙には代読している。 ご本人に返信をすすめると共に、ご家族からの積極的な交流を職員から願います。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問されている。 職員がお茶でもてなし、近況を報告している。		上記で遠方で遠のいている親族の方に積極的に写真付ハガキ等を送ったりして交流を深める。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族の了解を得て、転落防止、坐位保持に車イステーブルやベッド手すりを必要な時のみ使用している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は鍵をかけていない。 居室には鍵をつけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にチャイムをつけ、外に出られたら把握できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等は見守りのもと使用して頂いている。消毒、薬品類は一括して入居者の方の目の届きにくい所に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	急変時対応の勉強会を定期的に。又、その都度行っている。		毎月テーマを決めて勉強の場を設け、知識と理解を深めたい。 緊急連絡網はあるが行方不明、火災用も別に早急に作成する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命法の講習を定期的に行っている。 夜勤の急変時には、応援がかけつける体制をとっている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練の実施。 緊急連絡網を作成している。 自動通報装置、各居室に煙探知機を設置。		飲料水は準備しているが食料の準備を徹底する。 近隣の協力体制を整える。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては、ご家族に説明し、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックはもちろん、一人一人の体調の変化を申し送り、記録等で共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会。 服薬チェックしやすいように個別名の薬ポケットで対応。服薬時の職員の声かけ、見守り、確認。		薬の効能、副作用の表を作成する。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品をとり入れている。 食事の献立に配慮している。 なるべく自然排便を促せるよう考慮している。 一人一人に合わせた排便コントロールを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯みがきの声かけを行い、一人一人に合った介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄、消毒を行っている。はみがき隊に口腔ケアの勉強会をしてもらい、その重要性を職員間で共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、情報を共有。献立は一人ひとり個別に配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の情報収集を行い、早期発見・早期対応に努めている。職員、入居者の方はインフルエンザ予防接種を毎年受けている。手洗いの消毒の徹底。ペーパータオル使用。		来訪者の方にも手洗い消毒を促している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんの漂白は毎日行っている。冷蔵庫内の点検は頻回にし、食材の鮮度や状態を確認。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木鉢を置いたり、プランターに花を植え、明るいイメージを作っている。玄関の外にイスを置いている。階段・スロープに手すりをつけ、誰でも利用しやすいようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節を感じられるグッズを壁にかけたりして親しみやすい雰囲気を作っている。テレビの音、音楽などが雑音にならないよう気をつけている。掃除機、水道の音は時間を配慮、声かけ実施。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファやイスを置いて自由に坐ることができる場所を提供。3畳間にコタツを置いて自由に寝ころべるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具を持ってきてもらう。居室の家具の移動は必要最低限にして、なじみの空間として利用してもらっている。		ご本人や家族と相談し、もっと居心地のよい工夫をする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	そうじの時や居室に居られない時、窓を開放し換気に実施。各居室に換気扇あり。 温度計、湿度計は各居室に設置し、エアコン・加湿器でこまめに調整。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの方が多いので屋内すべてバリアフリー。手すりも随所に設置。トイレ・浴室も車イスで自由な動きができる広さがある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室内の家具や移動を必要最低限にして、慣れ親しんだ空間を維持。居室にネームプレートをつけ確認してもらっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにて気分転換をしたり、外気に触れてもらっている。 広い庭を利用して、お弁当を開いたりバーベキューを楽しむようにしている。畑の前に花壇設置。		木陰を作る等、夏場でも外で過ごせる空間を作りたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家とは少し離れているが、畑に囲まれ、静かでのんびりしている。新築平屋建て、リビング、各居室とも日当たりがよく、風通しもよい。車イスの方が多いため、屋内全てバリアフリーで自由に暮らすことができる。食事については、制限のある方が多く、一人ひとりに合わせた献立を提供している。重度化してもその人の生きる気力を大切にして、普通の暮らしができるよう支援している。